

第1回 白馬村社会福祉推進委員会 会議の要旨

【日 時】 令和8年9月25日（金曜日）13時00分～14時36分

【会 場】 白馬村役場 201・202 会議室

【出席者】

大北医師会	栗田 裕二	
白馬村民生児童委員協議会	塩島 純子	○
白馬村議会	酒井 洋	○
白馬村議会	永井 勝則	○
白馬村社会福祉協議会	長澤 肇	○
特別養護老人ホーム 白嶺	中村 真也	○
介護老人保健施設 白馬メディア	渡邊 俊彦	○
小規模多機能 おらの家あそなか	吉羽 一成	
地域健康づくり支援研究所 健學塾	福田 美奈子	○
白馬村身体障害者福祉協会	山岸 昭夫	○
白馬村手をつなぐ育成会	西沢 房子	○
療育・相談支援センター そらいろ	細野 智行	○
社会福祉法人しあわせ クロスロード白馬	太田 文敏	○
大北圏域障害者総合支援センター スクラムネット	松井 幸夫	○
白馬村地域包括支援センター	川嶋 一暢	○
大町保健福祉事務所福祉課	渡辺 公恵	○
公募委員	高橋 よし子	○
公募委員	高杉 栄子	○

事務局

白馬村健康福祉課 課長	工藤 弘美	○
白馬村健康福祉課 福祉介護係長	大森 倫子	○
白馬村健康福祉課 主幹	内山 明子	○
白馬村健康福祉課 主査	伊東 里志	○
白馬村教育委員会事務局子育て支援課	降旗 大輔	○

開 会（13：00）

（事務局） 会の成立及び開会を宣言。

1. 健康福祉課長あいさつ

工藤課長から、少子高齢化の進行するなかで、介護人材の不足などの課題はあるものの、施設で働く皆さんだけでなく住民の皆さんも含めて、共通の方向を目指すような計画を皆で考えていきたい旨を中心に挨拶があった。

2. 委員及び事務局職員の紹介

3. 会長及び副会長の選任

立候補者がいないことから、事務局案にて承認された。

会長 太田文敏（社会福祉法人しあわせ クロスロード白馬）

副会長 吉羽一成（小規模多機能 おらの家あそなか）

4. 会議運営に関する確認事項

事務局より資料のとおり説明（質疑等無し）

5. 協議事項

（1）計画策定までのスケジュールについて

事務局より資料のとおり説明（質疑等無し）

（2）現行計画の概要について

・白馬村高齢者福祉計画

現計画を抜粋しながら、計画の構成や要点について事務局から説明があった。

白馬村第6次総合計画の福祉・高齢者の部分と祖語のないように作成していくこととなることを念頭に置いてほしいことに触れた。

（質疑応答なし）

・白馬村障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画

資料「白馬村 第4期白馬村障害者計画 第7期障害福祉計画 第3期障害児福祉計画について」のとおり事務局から説明があった。

障害者の各計画については、国の基本指針に則して策定するものとされているため、指針から過度に内容が異ならないようにする必要がある旨の補足があった。

（質疑応答なし）

（3）その他

●事務局より連絡事項

・高齢者福祉計画の策定にあたっては、目標を明確にするところから着手していきたい。そこで、まずは各委員が考える理想像を把握するためのヒアリングシートの提出依頼があった。

・次回は部会の開催となる。日にちについては資料3のとおりなので予定してほしい。

・「障がいのある方の地域での暮らし」冊子の紹介があった。12月5日の樋端先生の講演や当事者や地域の方とのグループディスカッションがあるこ

との紹介があった。

●委員各位の関心や施設の状況について

- ・立場的にどちらの部会か選ぶことができたので、妻が下肢の身体障害を持っているため勉強したいと思い障害者部会を選んだ。
- ・人員不足により施設運営が難しくなっている。近隣から通勤できる範囲となると、白馬村よりも大町や松川、池田の職員が多い。白馬村だけでは人材の掘り返しが難しい。特に看護職や介護職が少ない。長野市の方が松本よりも近いが、長野圏域からは人材が流れてこない。専門職が増えていかない中でどのように運営していくのが課題だと考えている。
- ・個人情報の扱いが厳しくなり、関心が薄まり協会の存続が危うい。総会をやっても役員しか出席しない状況にある。
- ・人員不足をどのように解消していくのかは一事業所では解消が難しくなっているため、体制維持を一緒に考えてほしい。
- ・会員の高齢化と当事者も高齢化している。池田と松川は会員がいなくなりやめてしまった。継続しているのは大町と白馬のみ。一人でいることが認知症を進行させるのではないかと考えている。
- ・ケアマネジャーのシャドーワークが増えている。要介護者のヘルパーに行くと、精神疾患患者などケアが必要な方が他にも家にいたりすることが要因となっていると考えている。
- ・自身が精神疾患を患ったり、寝たきりになるという経験をした。高齢者を介護にしない予防の勉強をしている。認知症マップを作成して施設に寄贈をしたこともある。孤独が認知症を進行させると考えている。
- ・防災訓練に高齢者や障害者を参加してほしい。このような会議に参加するときに障害者権利条約などの知識がないとなにを質問していいかわからないかと思うので、勉強の機会にしてほしい。これまで、高齢者や障害者などの当事者を委員として参加してもらった方がいいのではと意見してきた。委員が無理なら傍聴してもらおうなど、当事者の参加を求めるべきではないか。

閉 会 (14:36)